



■高度看護実践開発委員会より～研修会報告～

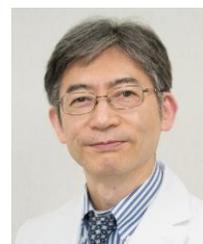
「心理的安全性のつくり方 -組織づくり・チームづくりのプロセス-」

新たなメンバーで、高度看護実践開発を推進する活動、研修プログラム内容を検討し、「心理的安全性のつくり方 -組織づくり・チームづくりのプロセス-」をテーマにweb研修会を開催しました。

講師は、お二人、小松康宏先生(群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学教授)、春名寛香先生(北播磨総合医療センター 急性・重症患者看護専門看護師)をお迎えしました。

小松先生より「心理的安全性と inclusive leadership- 各部署・各職種の壁を取り払う実践-」をテーマにお話を頂きました。医療事故には、組織体制の課題が潜んでおり、ガバナンスの見直しから医療安全のレベルを上げるという組織的な取り組みの必要性が提示されました。また、より良い組織では、現場のスタッフの力が肝要であり、職員のより良い状態(well-being)を維持・発展させるために「心理的安全性」という考え方が注目されていること、心理的安全性を高める要因の一つである「リーダーの行動」として、職員の多様性(性別、人種、文化等)を重視する「inclusive leadership」が注目されているとの解説がありました。今後は「患者参加(patient engagement)」をより実践的に進めていくことが課題となるとのことでした。

心理的安全性と Inclusive Leadership 各部署・各職種の壁を取り払う実践



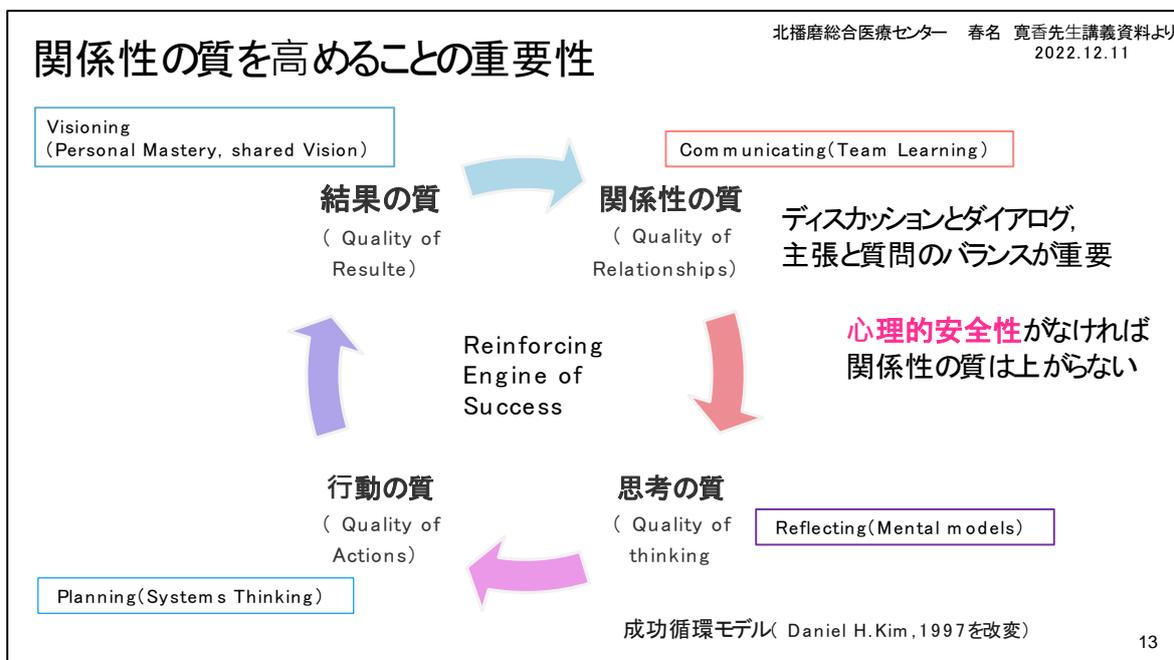
群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学講座

群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部

小松康宏

2022. 12. 11 聖路加看護学会 講演資料より

春名先生より「心理的安全性のつくり方 -APNとしての実践-」をテーマにお話を頂きました。専門看護師としてのご経験から、現場で感じられた看護職の遠慮、抵抗、不安などに対して、「関係性を高める必要性」という課題に、『心理的安全性がなければ関係性の質は上がらない』との理解から、成功循環モデル(Daniel H.Kim)を基に①個々のスタッフ、②看護チーム、③医療チーム全体、それぞれの心理的安全性を高めるためのアプローチについて、具体的な実践内容をご提示頂きました。



ご講演後は、チャットでの質問に対して(例えば、質問『影響力のあるポジションの職員への対応はどうすればよいのか』、回答『まずは「言ってくれてありがとう」という組織内の雰囲気づくりや、関係する管理者に働きかけていく』など、具体的で実践可能な回答・提案を両先生方から頂きました。

参加者 153 名のうち、122 名よりアンケート回答を頂きました。回答者の7割近くは専門看護師で、40代が5割弱、50代が3割強という構成で、講演に対しては、両講師の『講義内容の理解』はいずれも9割強が肯定的回答、『研修満足度』および、『今後の仕事で役立つ』はいずれも肯定的回答が98%でした。

わかりやすいご講演を頂きました両先生方と、日々の実践での課題を前向きに解決しようとする参加者との、相互作用により、本研修会は盛会裏に終わられました。委員一同、心よりお礼申し上げます。

(担当:柳橋礼子、青木悠、猪飼やす子、小松崎朗子、山本加奈子、吉田智美、渡辺かづみ)

■第27回聖路加看護学会学術大会 ～優秀演題賞のご紹介～

優秀演題賞(研究)

「障害や病いのある看護学生の演習や実習での体験～DIPEX-Japan『障害学生の語り』データの2次分析～」

瀬戸山陽子(東京医科大学)

射場典子(聖路加国際大学)・森田夏実(DIPEX-Japan)

「障害や病いのある看護学生の演習や実習での体験～DIPEX-Japan『障害学生の語り』データの2次分析～」という発表に賞を頂き、大変光栄です。どうもありがとうございます。この研究は、障害をもちながら高等教育機関で学んだ37名のうち、看護学専攻の7名が演習や実習の体験を話したデータを分析したものです。日本学生支援機構の調査では、2022年、全学生のうち障害のある学生は1.26%、保健や医療専攻における割合も同程度でした。欧米では、医療者の多様性は、障害のある人の医療アクセス改善などの医療の質向上につながるとして、様々な調査研究が進んでいます。近年の「教育の質保証の厳格化」と、「多様性や個別性の尊重」を両立するのはとても難しいですし、「障害学生」と言うと看護学分野ではまだハードルが高めです。しかし障害学生というラベルにとらわれず個々人の体験を伺うとそこから学ぶことは非常に多く、深掘し甲斐のあるテーマだと感じています。

語り手(分析対象者)				
ID	年代 ¹⁾	性別	障害	時間(分) ²⁾
A	20代	男性	発達障害(吃音)	117
B	20代	女性	聴覚障害(難聴)、内部障害(慢性腎不全)	111
C	30代	男性	内部障害(クローン病)	165
D	20代	男性	肢体障害(脊髄損傷・車椅子使用)	148
E	40代	男性	内部障害(慢性腎不全)	135
F	20代	女性	聴覚障害(ろう)	120
G	40代	女性	精神障害(うつ病)、発達障害(ADD)	145

1)年代はインタビュー時の年代、2)時間はインタビューの所要時間を表す

結果① 見いだされたテーマ	
<ul style="list-style-type: none">・ <学校からの配慮や環境調整> ※・ <直面した壁・困りごと> ※・ <困りごとに対する思い> ※・ <自分なりの対処や工夫> ※・ <周囲への説明や相談>・ <前向きになれた・自信を持てた体験>	<ul style="list-style-type: none">・ 以下の結果では※がついた4テーマに関して取り上げる・ 結果において、< >は見いだされたテーマ、斜体は語りデータとする

発表スライド:

語り手7名の属性と見いだされたテーマ一覧

優秀演題賞(実践)

「市民と保健医療専門職が共に考える People-Centered Care パートナーシップの教材作成への取り組み」

高橋恵子(埼玉県立大学)

有森直子(新潟大学)、中村めぐみ 亀井智子 麻原きよみ 射場典子(聖路加国際大学)、
菱沼典子(前三重県立大学)、新福洋子(広島大学)、朝澤恭子(東京保健医療大学)、
大森純子(東北大学)、田代順子(国際医療福祉大学)

この度は、「市民と保健医療専門職が共に考える People-Centered Care パートナーシップの教材作成への取り組み」という演題で、第 27 回聖路加看護学会 優秀演題賞(実践)の荣誉ある賞を頂き、感謝申し上げます。この演題は、高度医療の飛躍的な進歩の反面、高齢化の進展に伴う人口構造の変化、また未知なる感染症の世界的流行といった、人々が直面するさまざまな健康課題の改善に向けて、市民・当事者が主体となり、保健医療専門職(以下:専門職)とパートナーを組む、「People-Centered Care(以下:PCC)」の考え方を、広く普及する目的で作成した教材の取り組みを紹介したものです。作成した教材は、「PCC とは何か」を市民にも分かりやすく伝えるために、市民と専門職に欠かせないパートナーシップの要素に沿って、アニメーションと実写を用いた動画教材としました。教材の特徴は、同じ教材を用いて専門職と市民が共に「PCC パートナーシップ」を考える教材となるように、双方の行動姿勢のポイントを示した点です。今後は、本教材の活用可能性を検討するため、市民と専門職の双方から、教材の分かりやすさ、使いやすさと、活用の場や方法について調査を行い、教材の精錬を図り完成に繋げたいと思っています。

今回頂きました賞を励みに、10 名の共同メンバーと共に、People-Centered Care の普及に向けて、より一層精進して参ります。この度は本当にありがとうございました。



図1. PCC 動画教材



図2. PCCパートナーシップの8要素

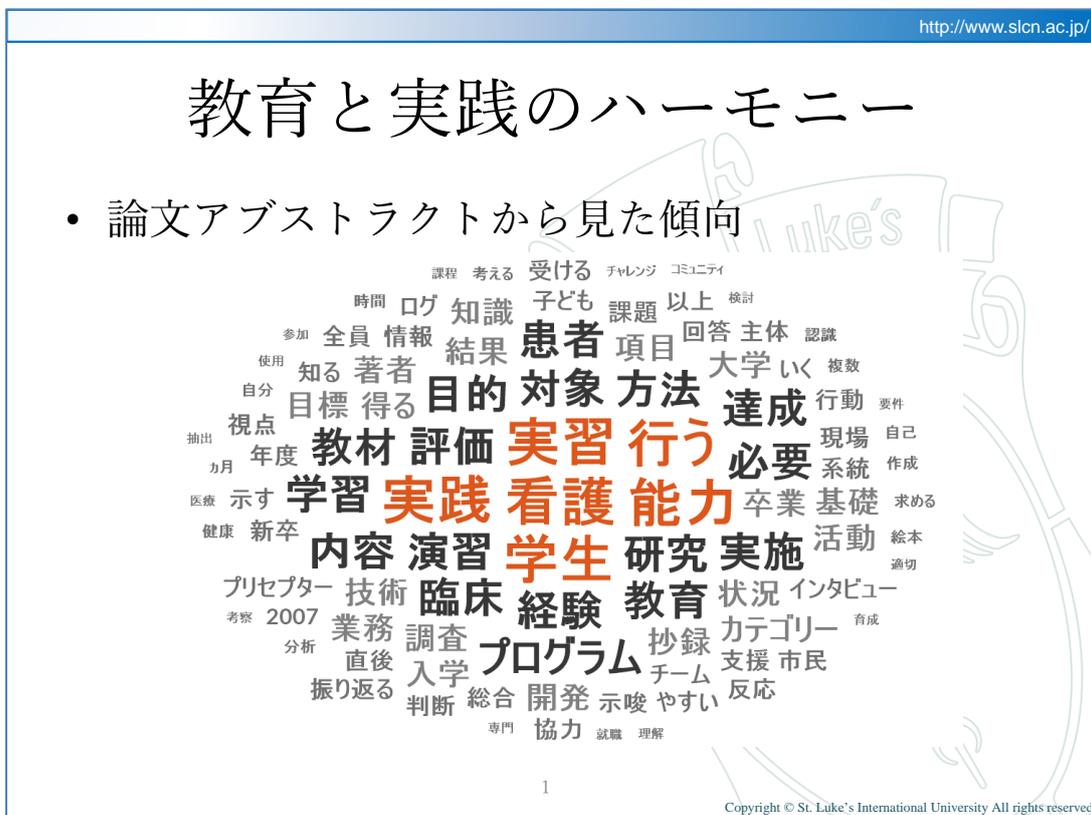
■第27回聖路加看護学会学術大会 ～松谷先生の追悼企画を終えて～

三浦友理子（聖路加国際大学）

第27回聖路加看護学会学術大会にて、松谷美和子先生の聖路加看護学会での功績について奥裕美先生と発表する機会をいただきました。発表への準備を通して、先生が学術大会長をされた際の「教育と実践のハーモニー」というテーマを奏するような研究活動であったとあらためて認識することができました。

松谷先生は、善い看護実践を届けるために、経験を省察し、自ら豊かに成長していく看護専門職像をイメージしていたように思います。そのはじめの一步となる学生から臨床看護師への移行に関心を向け、様々な視点から教育や研究を行っていました。松谷先生が関わった研究論文の抄録等を奥先生が分析した結果では、「実践」「学生」「実習」「臨床」「経験」という言葉が多く抽出されました。臨床看護実践を高めるための様々な研究を集積されてきたことが良く表れていると感じます。

本企画を通して、先生の看護学教育に対する理念を引き継ぎ発展させていかなければと決意を新たにすることができました。企画してくださった委員の皆様に深く感謝申し上げます。



第27回SLNR学術大会松谷美和子先生追悼企画スライドより（奥作成）

■ 学術交流委員会からのお知らせ

❖ 2022 年度学術交流集会のご案内

学術交流委員会では、2023 年 3 月 5 日(日)に「しあわせに働くー心理的安全性を高めるためにみんなですることー」をテーマに、チーム力開発研究所理事の青島未佳先生にご講演いただき、参加者の皆さまと交流する会を開催します。

私たち看護職は様々な職場で健康の専門家として働いていますが、だれしも、自分自身の well-being も大事にしたいと願っています。幸せに快く働くためには「心理的安全性」が必要です。「心理的安全性」の学術的概念を踏まえ、現場で具体的にどのように実践していくのかを考えていきます。

本交流会は 12 月 11 日に開催した聖路加看護学会高度実践看護開発検討委員会主催の「心理的安全性」の講演会とのリレー企画です。

奮ってご参加ください。

参加登録 QR コードはコチラ!



SLNR 2022 年度 聖路加看護学会 学術交流委員会主催 学術交流会

テーマ: しあわせに働く
~心理的安全性を高めるために、みんなですること~

*高度実践看護開発検討委員会主催講演会「心理的安全性のつくり方ー組織づくり・チームづくりのプロセスーとの、リレー企画です!

2023年3月5日(日)
時間:13:00~14:50
*参加無料(学会員・非学会員とも)
*場所:聖路加国際大学 CCA 日野原ホール(会場定員:100名まで)
*方法:ハイブリッド開催(予定)
*WEB(zoom)、会場どちらからでも参加できます
*covid-19 の感染状況によって、オンライン形式に変更となる可能性があります。
開催形態の最終確定は、2月20日(月)、学会ホームページより配信します

*参加申込: 2022年12月8日(木) ~ 2023年2月17日(金)

開催趣旨

私たち看護職は、様々な職場で健康の専門家として働いていますが、だれしも、自分自身の well-being も大事にしたいと願っています。今年度は、「しあわせに働く」をテーマに、特に「職場の心理的安全性」について専門家の講師を交えて参加者の皆様と考えていきたいと思えます。是非ご参加ください。

プログラム

13:00~13:05 開会の挨拶
13:05~14:05 講師によるレクチャー
14:05~14:45 講師を交えての意見交換
14:45~14:50 “しあわせに働く”ためのメッセージ~講師からのエール
14:50 閉会

講師:青島未佳先生

一般社団法人チーム力開発研究所 理事
国立大学法人九州大学大学院
人間環境学研究院 学術研究員

主な著書:『高業績チームはここが違う』
『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』など

当日会場では、閉会后、「聞きたい!青島先生」(直接質問タイム)を設けます。ご関心のある皆様、ぜひ、「会場参加」にてご参加ください。

❖ 研究助成への多数のご応募ありがとうございました!

2023 年度の看護実践科学研究助成基金研究助成」の応募は、2023 年 1 月 31 日をもって締め切りました。選考結果は 3 月末にお知らせ予定です。

(担当:吉田千文(委員長)、青木美紀子、大森祥乃、佐藤直子、鈴木美穂、高橋奈津子、松本文奈)

■ 学会誌編集委員会からのお知らせ

学会誌編集委員会では、査読プロセスにおける期間短縮において対策を検討しております。日頃の実践の報告から、研究成果まで幅広く受け付けておりますので、是非とも本学会誌にご投稿いただければと思います。

(担当:有森直子、大坂和可子)

■ 庶務からのお知らせ

会員数は586名(10月31日現在)です。本学会では、時期を問わず新規会員を募集しています。ぜひ会員の皆様から、周辺にご関心のある方がいらっしゃいましたら入会のお声がけのほど宜しくお願い申し上げます。

2022年度は会員総会を開催でき、会員の皆さまの顔を見ることのできる機会も少しずつ戻ってきたように思います。これからも会員の皆さまのお声に応えられるような学会運営をしていきたいと思っております。

現会員様のご所属、住所、メールアドレス等ご変更の際には、事務局へのご連絡を引き続きよろしくお願い致します。HP内「[会員情報変更](#)」フォームよりご入力をお願いします。

(担当:大久保暢子、西垣佳織、森田誠子)

■ 会計からのお知らせ

2023年度の新しい活動計画を立てる時期になりました。本学会は、新型コロナによる制限の中でもオンラインの活用で様々な活動を行ってまいりました。感染対策の変化にとともに、事業の方法も変化していきますのでご期待ください。また30周年事業の計画も開始となります。学会活動は皆様の会費により成り立ちます。今年度の年会費をまだお支払いになっていない方は2022年度中に必ず納入してください。本学会の規定では、3年間年会費を滞納された方は除名になってしまいます(その際にも未納入の会費の請求を行います)。魅力ある学会をつくるために、ぜひ年会費の納入をお願いします。

振り込み先:郵便振替口座

口座番号:00100-8-670371

加入者名:一般社団法人聖路加看護学会

(担当:平林優子、小林真朝)

■ 選挙管理委員会からのお知らせ

次年度は、評議員選挙と理事・監事選挙があります。選挙の時期になりましたら、ホームページやニュースレターで選挙についてお知らせします。

ご所属やメールアドレス等のご変更がある方は、ご変更の手続きをお願いいたします。次年度も選挙へのご協力をお願いします。

(担当:高橋恵子、永井智子、西村恵理奈)

第 28 回聖路加看護学会学術大会のお知らせ

会期:2023年9月18日(月)*~10月23日

オンライン LIVE (9/18)*& オンデマンド配信

*日程が変更となっています

テーマ:Working Together-協働を探究する-

学術大会会長:吉田千文(常磐大学)

演題募集! 2023年3月6日~



学術大会 HP の QR コード
(HP 公開は 3 月 6 日の予定)

■ 編集後記



皆様、新年度に向けて様々なご準備をされていることでしょう。今回のレター冒頭のイラストは福寿草です。日本では古くから「福を招く」花として親しまれてきました。小さな黄色い花がたくさん集まりとてもかわいらしく、3月に見頃を迎えます。皆様の新年度に幸福をもたらしますように。

(大橋久美子 佐居由美 海老原樹恵 賀数勝太 瀬戸山陽子 竹森志穂 松尾尚美)

ニュースレター発行や様々な情報をメーリングリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、
変更届フォームにて、<https://slnr.or.jp/change/>
学会事務局までご連絡ください



一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.60

▶ 発行: 2023年2月28日

▶ 編集: 広報委員会

(大橋久美子 佐居由美 海老原樹恵 賀数勝太 瀬戸山陽子 竹森志穂 松尾尚美)

▶ 連絡先: 〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学内

[学会ホームページ] <https://slnr.or.jp/>